



福島小学校の取り組み

子どもたちの学びを支える学校図書館

学校図書館は学びの拠点であり、子どもたちが豊かな感性や言葉を磨き、調べる楽しさを学ぶための宝物が詰まっている場所です。また、情報リテラシーを身に付ける場所でもあります。そこで、今回は学校図書館の三つの機能に沿って本校の主な実践を紹介いたします。

福島小学校
校長 中島 剛
児童 163人

学校図書館にはこんな役割があります！

- 読書センター**
本を選んで読む経験や読書に親しむきっかけを与えて、豊かな心を育みます。
- 学習センター**
授業に役立つ資料を備え、学習支援を行います。
- 情報センター**
資料の探し方や使い方を教え、情報活用能力を育成します。

学習センター・情報センター

「ずかんたんけん(一年)」
国語や生活の学習で、一年生から図鑑や科学的な読み物を使って調べるのが始まります。十月には、図鑑で学び方の学習の基本である「目次と索引」を使って調べるスキル学習をしました。

百科事典たんけん(三年)

紙版の百科事典の使い方のスキル学習は、国語辞典の引き方を勉強し、総合的な学習が本格的に始まる五月初めに行います。国語辞典の学習で習った「はしら・つめ・小口」と「ずかんたんけん」で学んだ「目次と索引」がここで活用されます。

漢字辞典たんけん(四年)

「電・襦・嘴・肆」これ、なんて読むのかな？
大人気漫画やアニメのキャラクターなどの漢字から始まった漢字辞典たんけんは、スキルを教えるのではなく、課題解決学習を意識して、自分たちで調べ方を見つけ出す授業を目指しました。

学習年鑑たんけん(五年)

五年生の社会では、漁業・農業・工業について学習します。ここでは、様々なデータを読み取る力も育成していきます。また、国語の説明文の学習では、グラフ資料から読み取ったことをもとに自分の意見をまとめる学習があります。

「目次と索引」からの調べ方を知ると、自分の好きな図鑑を使って調べ始め、初めて知ったことをクラスのみんなに伝えよう活動に移っていきます。その時に「凡例」



「ずかんたんけん」を使って調べてみたよ



「ウミネコってどんなネコかな？」

担任が「デジタル百科事典」の指導を行いました。



「いろいろな方法で探してみよう」



「本に載っているかな？」

「目次と索引」の調べ方(単位・出所・出版年)も分かるようにします。そして、読み取った情報をもとに、なぜそのようになるのか、調査年の比較からその変化の理由を考察する活動に結びつけていきます。

提言

学校図書館の静かな音色



福島小学校 校長 中島 剛

学校図書館では、今日も時間になると鳩が鳴いて、子どもたちを静かに見守っています。これからも家庭と町図書館と学校図書館が一つになって、読書好きな子どもを育てていきたいと思えます。

福島小学校ではチャイムが鳴りません。子どもたちは時計を見ながら自主的に行動しています。そんな本校に一つ、時を知らせる音があります。学校図書館の鳩時計です。針が12と6を指すと、鳩が出て「ポッポー」と鳴きます。静かに読書をしていると、館内に響き渡ります。

「三読書会」には、学校司書の先生や担任の先生も参加し、その話に子どもたちは興味津々に聞き入っていました。子どもたちも自分が主人公になりきったり、行ったこともない場所へあたかも行ったかのように話したりして、想像力を膨らませていました。子どもたちの話を聞きながら、読書は、無限の可能性を広げ、その子の個性を伸ばすことができると感じました。

コロナ禍の取り組み 読書活動について

福袋プロジェクト
コロナ禍で休校期間だった四・五月に、子どもたちに本を読んでもほしい、という先生方の願いがありました。そこで、甘葉町図書館から約千冊の本を借り、図書部により一人五冊入っている本の福袋を用意することができました。

学校再開後、子どもたちから感想を募集したところ、「自分では選べないような本も入っていました。読んでみたらおもしろかったです。」という感想も見られました。また、本の話題を家族で共有することで楽しみが一つ増えたという声も聞くことができました。



町図書館の本約1,000冊



福袋の仕分け作業

お気に入りの一冊を紹介しよう

夏休みの前後に、これまで読んだ本の中から、「お気に入りの本」について紹介文を書く活動を全校で行いました。完成した紹介文は、コンクールへ応募しました。



ミニ読書会のデモンストレーション 左から学校司書、担任、学校図書館長

しながら取り組みました。一度書き方を学習したことで、文章をまとめたり要約したりするなど、他の教科で活用している場面も出てきました。

学校図書館は誰が運営しているの？

学校図書館長は誰だか知っていますか？
実は校長先生です。そして、本校では、司書教諭、図書主任、国語主任、学校司書、学校支援員で図書部を組織しています。2003年度より司書教諭は12学級以上の学校での配置が義務となりましたが、8学級の本校でも教育委員会により発令されています。また、町では昨年度から学校司書も採用されました。小中全校兼務ですが、近隣市町村と違い、文部科学省が公的に使っている学校司書という職名を呼称として、有資格者が配置されています。